

特別講演 2

「心不全の病態 ～病診連携を含めて～」

金沢大学医薬保健研究域医学系

循環器内科学 教授

高村 雅之 先生

団塊の世代が 75 歳以上となる「2025 年問題」が過去のトピックスのようになりつつあるが、その期日が目前に迫っている。日本の人口の 3 人に 1 人が 65 歳以上、4 人に 1 人が 75 歳以上という人口構造となることが想定され、高齢化に伴う循環器疾患患者の増加は避けては通れず、患者の生活の質をいかに維持するかが問われる。

2025 年を迎えるにあたり、超高齢化の進行に伴う基礎疾患の増加、平均寿命と健康寿命との乖離、急性期医療から回復期・慢性期医療へのシームレスな連携体制の構築などの課題に対して取り組む必要がある。脳卒中・循環器病対策基本法では命に関わる循環器疾患として心不全、急性心筋梗塞、大動脈解離、不整脈が含まれているが、本日は心不全の病態・治療、病診連携・多職種連携、心不全パスの活用をテーマに議論したいと思います。